

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

93-559

事務事業名	非補助土地改良事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	土木課		包含する細々目	1	6	1	7	17	1	110,000
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	済み							関連計画 条例等
		事業期間		年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	農業振興地域の農業施設で整備が必要な施設 農業従事者及び農業振興地域内農地	要望施設数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			128			
		農振農用地面積:ha	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			3240			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
農業振興地域内の農業施設を改修することにより、維持労力の節減等営農の効率化を図る	実施地区数	18目標	31	最終目標		
		18実績		19目標	29	
	23目標		23実績		最終目標達成年度	
	事業完了地区数	18目標	78	最終目標		
		18実績		19目標	91	
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	農業振興地域内の、農道整備・農道舗装・かんがい排水施設等の整備を、地区要望の中から、緊急度が高く投資効果の高い順に実施 農業生産力の増大、生産性の向上を図るための生産基盤の整備や農村環境基盤の整備などに係る費用に対して長期・低利な融資を行う、農業基盤整備資金を利用する、非補助土地改良融資事業(利子軽減)である	18年度の実績 工事施工 農道整備 9地区 L=734m 農道舗装 5地区 L=1,150m かんがい排水 18地区 L=1,551m	工事施工地区数	32
	19年度計画	工事施工 農道整備 10地区 農道舗装 5地区 かんがい排水 17地区	工事施工地区数	29

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他	110,000	110,000
一般財源			
事業費計(A)	110,000	110,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 2,700	19年度 2,700
	臨時職員等所要時間	200	200
	人件費計(B)	9,870	9,870
	トータルコストA+B	119,870	119,870

特定財源内訳や補足事項	農林漁業資金償還補助金
-------------	-------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	荷痛みの解消、営農の合理化による増収が図れ、荒廃・遊休農地の増加が抑制される 出荷額を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	121	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
営農の省力化、生産物出荷時の荷痛み防止、用水の確保等の要望により開始。	過疎化や農家の高齢化等の進展、若者の農業離れにより、荒廃・遊休農地が著しく増加し、農業用施設の荒廃が一層進んできている。事業要望箇所が毎年寄せられており、完了できる箇所以上に新たな箇所が要望されてきている。	過疎化や農家の高齢化等の進展により、農業用施設の保全管理が困難になり、老朽化が一層進み、地区からの改修要望が多く寄せられている。

### 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由) 農業施設が改良されることにより、営農が安定する	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由) 維持労力の節減等、営農の効率化に結びつくよう、事業の計画及び実施を行う
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由) 地区からの要望を調査し、事業必要箇所を精査する		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 農業従事者の高齢化が進んでいるため、営農の効率化が図れなくなり、農地の流動化も進まず、荒廃農地が増大する。
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 維持労力の節減等営農の効率化を図るためには、農業施設の改修・補修が必要である		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由) 県営・団体営土地改良事業、市単土地改良事業 他の事業の採択要綱等(事業規模等)にかなわない箇所では農振区域内の事業が対象となる
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由) 市管理施設の整備である		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由) 工法等を見直し、コストの縮減を図る
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 不特定多数が利用する道路の整備などのため、受益者負担は難しい

### 【Plan】改革改善

<b>今後の事業の方向性</b> <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<b>実施年度</b> <input type="text"/>	<b>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</b> 農道の整備において、市の構造基準を整備。工法等を見直して、コストの縮減を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法		

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	